緊急調査

高校生の進路選択に『今』何が起きているのか

―コロナウイルス感染拡大による進路選択影響調査―

調査概要

高校3年生向け調査（第1章掲載）	高校2年生向け調査（第2章掲載）
●4月調査 ・調査期間：2020/04/23 ～ 2020/04/24 ・有効回答数：402人 ●7月調査 ・調査期間：2020/07/28 ～ 2020/07/29 ・有効回答数：421人	・調査期間：2020/08/14 ～ 2020/08/17 ・有効回答数：400人

※調査対象は、調査実施時に当該学年で大学・短期大学・専門学校いずれかへの進学を検討している男女
※調査手法は全てインターネット調査

2021年度入試は大学入学共通テストの導入、学力の3要素評価の入試区分拡大、出願時期などの新ルールなど変更事項が多く進学に関する情報収集難易度が増していたところに、新型コロナウイルスの感染拡大が追い打ちをかけた。情報収集難易度が増しており、高校3年生の進路を取り巻く状況は不透明感の漂う状態に陥っていた。そのような中で、全国の高校に臨時休校要請が通知され、3月以降順次一斉休校となった。そして、その状態は2～3カ月も続き、年度末～年度始めの時期と重なったことにより、学校現場は大変な混乱状態に陥った。こうした中で、高校生自身はどのように進路選択のための行動をしていたのか、しようとしているのか。進路選択が間近に迫る高校3年生とオープンキャンパス参加等で進学先情報収集を始める高校2年生を対象に緊急調査を実施した。

第1章では高校3年生の進路選択行動について、休校直後の4月実施調査と休校明け後の7月実施調査を基に変容を見ていく。続いて、第2章では高校2年生の進路選択像について夏休み明け8月末実施調査を基に迫っていきたい。

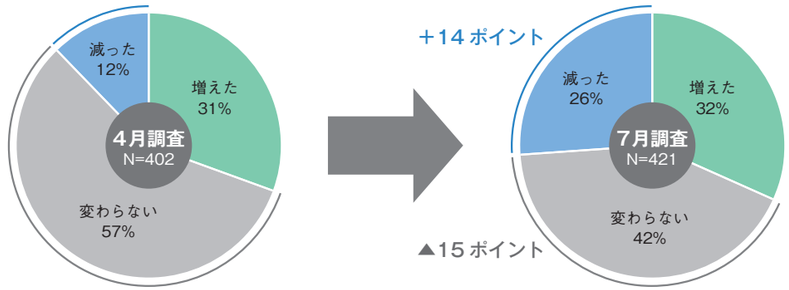
第1章 高校3年生の進路選択行動

進路選択情報との関わり
「入試情報」「オープンキャンパス情報」が不足

進路選択情報の収集時間は、「変わらない」の割合が1番高い

3月から全国一斉休校となったことで、春のオープンキャンパスは軒並み中止に追い込まれた。いよいよ最終学年を迎え、進路検討が本格化していく直前に突然訪れたコロナ禍。進路に関する情報収集時間の増減について、4月→7月変化を見てみると「変わらない」の割合が1番高く57％→42％（▲15ポイント）、「減った」が12％→26％（＋14ポイント）、「増えた」はほぼ同等だった（図表1）。情報収集時間の増減理由を見ていると、4月は休校でできた時間を活用して「増えた」、先生や塾、予備校など収集の場が休校となり「減った」という意見が目立つ。7月になると、オープンキャンパスがないことや学力不安から自らネットで情報収集して「増えた」、大学からの情報が十分に発信されない、学校からの課題で忙しいなどの理由で「減った」コメントが多かった。「変わらない」の理由は、進路が決まっており勉学優先、入試情報が不確定で調べようがない、ネット上で提供される情報で問題ないといった、コロナウイルスの影響に振り回されず、着々と進路選択に向けて冷静に前進する姿が窺えた。

図表1　進路選択情報収集時間の増減とその理由（単一回答）



【4月調査】

増えた理由
- ●休校になり時間ができた
- ●コロナで自宅学習となり、学校が頼れなくなったから
- ●新型コロナの影響で、より調べないと情報が更新されていることもありえるから
- ●オープンキャンパスに行けない可能性が増えたから

減った理由
- ●塾も学校も休みで収集の場もなく、大学側からも新しい情報も特にないし、まだこれからどうなるのか全くわからないから
- ●何をすればいいか分からず、止まっている
- ●先生に直接相談できないため
- ●オープンキャンパスに行けないから

変わらない理由
- ●勉強時間の方が増え、進路の情報収集時間は増えていない。今、収集しても入試情報などは変わる可能性もあるかもしれないから
- ●今年度の入試がどういう状況で行われるかわからないため、調べようがないから
- ●調べても新しい情報が追加されていないから
- ●進路がほぼ決まっているため、その進路に向けて勉強する方がよいと考えたから

【7月調査】

増えた理由
- ●休校の影響で進路を考えるきっかけが増えたから
- ●オープンキャンパスや見学会がないので、インターネット等を使って自分から動いて調べないと、情報を得られないから
- ●推薦入試を希望していたが、コロナのせいで定期テストが減り評定が心配になったので一般入試の情報を集めるようになったから
- ●両親の収入に変化があり、進学できる範囲が狭まったため

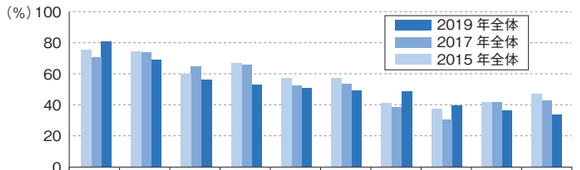
減った理由
- ●オープンキャンパスの自粛や休校により情報を得る機会が減った
- ●オープンキャンパスがオンラインであまり詳しく分からない
- ●大学の情報を出すのが遅れたり、オープンキャンパスがなくなった
- ●自粛期間は学校からの課題に追われて大学を調べるどころではなかったから
- ●先生との相談が出来なかった

変わらない理由
- ●ネットで個別相談やオープンキャンパスが受けられるため
- ●ウェブ上で大学について調べることができたから
- ●オープンキャンパスはなくなったけれど、その分大学側や各種予備校の対応が手厚いから、特に減ったとは思わない
- ●コロナが進路には影響を及ぼさなかったから

不安を感じている「入試」と「オープンキャンパス」の情報を中心に収集

4月、7月共に、欲しい情報1位は「志望校の入試情報」で、4月:39.6％→7月:51.3％（＋11.7ポイント）と7月には5割を超えた(図表2)。昨年の調査では、保護者が重要と感じる進学情報も、1位「現在の入試制度の仕組み」80.4％、5位「入試の内容」50.7％と入試に関連する情報となっており、コロナ禍以前より共通テストの導入や個別大学入試改革の影響を受けた最新の入試情報への意識は、高校生・保護者共に高い（参考図表:高校生と保護者の進路に関する意識調査2019)。2位は「志望校のオープンキャンパス情報」36.3％（7月調査のみ選択肢）で、詳細は次項以降述べる。コロナ対策については、「志望校のコロナへの対応情報」(4月:29.4％→7月:23.3％)で、感染拡大が落ち着きを見せたことから学校の対応も進んでおり情報としての優先度は減少しているようだ。男女別に見てみると、女子のほうがスコアが高い項目数が多く、情報感度は高い傾向が見られた。男子のほうが高い項目は「学力を上げるための情報」(男子:37.1％＞女子:24.6％)、「志望校や志望分野を選ぶための情報」(男子:28.0％＞女子:24.9％)、「自分の学力情報」(男子:25.8％＞女子:21.8％)で、学力に関する3項目であった。

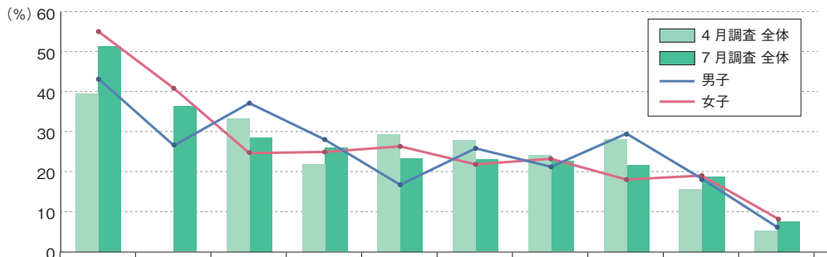
参考図表　保護者が重要と感じる進学情報 TOP10（複数回答）
（高校生と保護者の進路に関する意識調査 2019）



	調査数	現在の入試制度の仕組み	進学費用（学費・生活費など）	学部・学科の内容	将来の職業との関連	入試の内容	就職の状況（実績）	難易度	通学の便	奨学金の種類と採用条件	資格取得の状況（実績）
2019 年 全体	1123	80.4	68.9	56.1	52.8	50.7	49.2	48.6	39.2	36.4	33.6
2017 年 全体	1192	70.7	73.5	64.3	65.5	52.4	53.4	38.3	30.3	41.6	42.6
2015 年 全体	946	75.4	74.3	59.9	66.5	56.9	57.0	40.8	37.2	41.4	46.9

各年で最も高い　各年で2～5番目に高い　※「2019年」降順ソート

図表 2　進路選択における欲しい情報の 4 月→ 7 月変化（複数回答）



	調査数	志望校の入試情報（入試の時期、科目、倍率など）	志望校のオープンキャンパス情報	学力を上げるための情報	志望校や志望分野を選ぶための情報（適性診断などを含む）	志望校のコロナへの対応情報	自分の学力情報（志望校合格判定情報や模試による学力診断など）	奨学金や学費にまつわる情報	特に変わらない	志望校の学習環境情報	就職の情報	その他
4 月調査 全体	402	39.6	-	33.3	21.9	29.4	27.9	24.1	28.1	15.7	5.2	0.7
7 月調査 全体	421	51.3	36.3	28.5	25.9	23.3	23.0	22.6	21.6	18.8	7.6	0.2
【7 月調査 属性別】												
男女別 男子	132	43.2	26.5	37.1	28.0	16.7	25.8	21.2	29.5	18.2	6.1	0.0
男女別 女子	289	55.0	40.8	24.6	24.9	26.3	21.8	23.2	18.0	19.0	8.3	0.3

各月で最もポイントが高い　※「7月調査 全体」降順ソート
「7月全体」より5ポイント以上高い　「7月全体」より5ポイント以上低い

WEBオープンキャンパスの広がり
突然のオンライン化に戸惑いつつ、リアル開催とは異なる価値を感じている

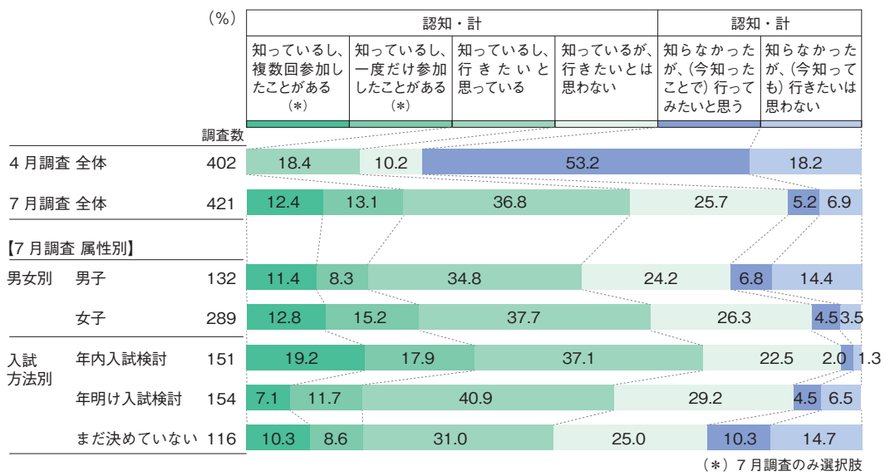
7月時点のWEBオープンキャンパス認知率は88％、参加率は26％

進学情報源として重要なオープンキャンパスは、今夏開催スタイルを大きく変えざるを得なかった。ここではWEBオープンキャンパス（オンライン上で実施されるオープンキャンパス、以下WEB OC)について注目したい。まず、WEB OCの認知について4月段階では「認知・計」が28.6％だったが、7月には88.0％と3倍近く急上昇（図表3)。コロナ禍前からWEB OCは少数ながら開催されていたが、2020年OC開催スタイルとして市民権を得た。実際に参加した高校生は7月で25.5％（「知っているし、複数回参加したことがある」＋「知っているし、一度だけ参加したことがある」）と少ないが、「知っているし、行きたいと思っている」36.8％、「知らなかったが、今知ったことで行ってみたいと思う」5.2％で、参加意向は4割を超えており、「知らない」から「行ってみたい」へ状況は変わってきている。では、どれくらいの大学がWEB OCを開催しているのだろうか。弊社運営「スタディサプリ進路」に掲載いただいている大学のOC掲載数の推移見てみると、WEB OC開催校率は、4月末:3.1％→6月末:5.5％→7月末:38.8％→9月末:45.9％と約半年で急増しており、掲載校中5割弱の大学が開催している。リアル OCと両方開催している大学も多く、高校生に向けてなんとか情報を伝えられないかと、様々なコンテンツやコミュニケーションの場作りについて創意工夫されている。

「キャンパスの雰囲気」を感じるリアル OCは85％、WEB OCは49％

WEB OCは圧倒的に「一人で参加」68.8％（男子:81.8％、女子:64.9％）が高かった（図表4)。リアル OCは友人や保護者など、“誰か”と参加することが多く、お1人様参加はオンラインの特徴といえる。とはいえ、保護者とWEB OC参加は26％（男子:9.1％、女子:31.1％）おり、高校生の意識と主催側の工夫によって、“誰か”と参加することは今後増えてくるのではないだろうか。リアル OCとWEB OCそれぞれで得られた情報について、参加経験者に尋ねた（図表5)。リアル OCは1位「進学先の場所、キャンパスの施設設備や雰囲気を知る」が85.3％、WEB OCで49.0％と半数を切っている。この“雰囲気”は

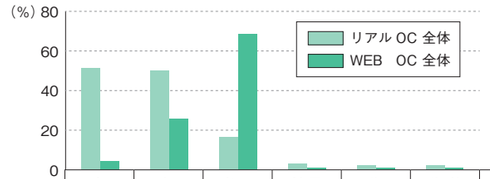
図表 3　WEB オープンキャンパスの認知と参加意向（単一回答）



（＊）7 月調査のみ選択肢

一般的にオンラインでは伝わりづらいと言われており、開催している学校も共通して悩まれている点ではないだろうか。1人でも気軽に参加でき、体験できるWEB OCのメリットを生かしつつ、“雰囲気”をどのように伝え、持ち帰ってもらうかがWEB OCの今後の課題といえそうだ。一方、WEB OCで得られた情報で、リアルOCより評価が高かったのは「進学先の入試情報、入試対策情報」52.1%、「就職状況」29.2%、「資格取得状況や合格率」31.3%、「学費や奨学金などの情報」26.0%などで、整理されたデータや情報は、オンライとの相性がよく、高校生の理解も得やすいようだ。

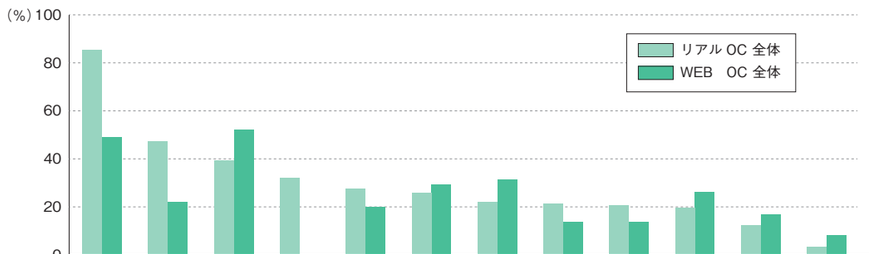
図表4 「リアルオープンキャンパス」と「WEB オープンキャンパス」それぞれ誰と一緒に参加したか（参加経験者 / 複数回答）（7月調査）



	調査数	友人	保護者	参加一人で	姉兄妹弟	先輩	先生学校の	その他
リアル OC 全体	307	51.5	50.2	16.6	3.3	2.3	2.3	0.3
WEB OC 全体	96	4.2	26.0	68.8	1.0	1.0	1.0	2.1
【リアル OC 属性別】								
男女別 男子	88	59.1	30.7	23.9	3.4	4.5	3.4	0.0
女子	219	48.4	58.0	13.7	3.2	1.4	1.8	0.5
【WEB OC 属性別】								
男女別 男子	22	4.5	9.1	81.8	4.5	0.0	0.0	4.5
女子	74	4.1	31.1	64.9	0.0	1.4	1.4	1.4

各OCで最もポイントが高い　※「リアルOC 全体」降順ソート
「リアルOC 全体」より5ポイント以上高い
「リアルOC 全体」より5ポイント以上低い
「WEB OC 全体」より5ポイント以上高い
「WEB OC 全体」より5ポイント以上低い

図表5 「リアルオープンキャンパス」と「WEB オープンキャンパス」それぞれで得られた情報（参加経験者 / 複数回答）（7月調査）



	調査数	進学先の場所、キャンパスや施設設備の雰囲気を知る	進学先の最寄り駅からの経路を確かめる	進学先の入試情報、入試対策情報を確かめる	進学先の学食を利用する	進学先の在学生と直接会って話す	進学先の就職状況を確かめる	進学先の資格取得状況や合格率を確かめる	保護者と一緒に進学先を見る	進学先の大学教職員と直接会って話す	進学先の学費や奨学金などの情報を確かめる	個別相談などで直接質問する	進学先の卒業生と直接会って話す	その他
リアル OC 全体	307	85.3	47.2	39.4	31.9	27.4	25.7	22.1	21.2	20.5	19.5	12.4	3.3	0.3
WEB OC 全体	96	49.0	21.9	52.1	-	19.8	29.2	31.3	13.5	13.5	26.0	16.7	8.3	2.1
【リアル OC 属性別】														
男女別 男子	88	84.1	37.5	30.7	29.5	26.1	18.2	15.9	10.2	22.7	14.8	8.0	4.5	1.1
女子	219	85.8	51.1	42.9	32.9	27.9	28.8	24.7	25.6	19.6	21.5	14.2	2.7	0.0
【WEB OC 属性別】														
男女別 男子	22	50.0	31.8	40.9	-	27.3	31.8	31.8	22.7	9.1	27.3	22.7	18.2	0.0
女子	74	48.6	18.9	55.4	-	17.6	28.4	31.1	10.8	14.9	25.7	14.9	5.4	2.7

各OCで最もポイントが高い　各OCで2〜3番目にポイントが高い　※「リアル OC 全体」降順ソート
「リアルOC 全体」より5ポイント以上高い
「リアルOC 全体」より5ポイント以上低い
「WEB OC 全体」より5ポイント以上高い
「WEB OC 全体」より5ポイント以上低い

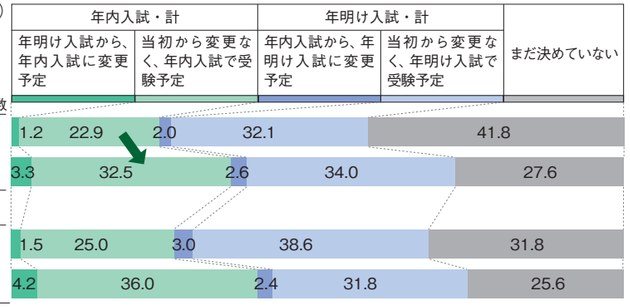
併願校選びと受験する入試方式への影響

安全志向のさらなる高まりにより、年内入試へのシフトが加速

併願校は「知っている大学から選ぶ可能性が高まる」が3人に1人

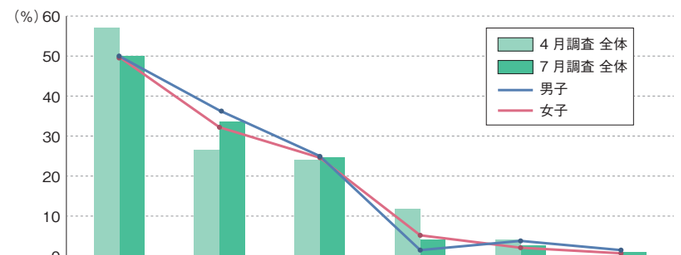
受験を検討している入試方式について、4月→7月の変化を見てみると「年内入試・計」が24.1%→35.8%と＋11.7ポイント上昇している（図表6）。これは、4月時点ではまだ決めていなかった層が年内受験に流れていると考えられる。次に、第1志望校以外の選択、つまり併願校選びについても、4月→7月の変化を見てみると「特に変化はしないと思う」が半数（4月：57.0%、7月：49.9%）近くと1番高いスコアであるが、2位「既に知っている大学から選ぶ可能性が高まる」（4月：26.4%、7月：33.5%）は7.1ポイント上昇している。定員厳格化や共通テスト初年度に加え、突然のコロナ禍で十分な進路選択情報が得られないなか、年内入試シフトが加速し、志望校は知っている大学や偏差値から選ばざるを得ない、超安全志向がさらに高まると考えられる。

図表6 受験を検討している入試方式の4月→7月変化（単一回答）



	年内入試・計	年明け入試・計
4月調査 全体	24.1	34.1
7月調査 全体	35.8	36.6
男子	26.5	41.6
女子	40.2	34.2

図表7 第1志望校以外（第2志望校、第3志望校などの併願校）の志望校選びについて（複数回答）



	調査数	特に変化はしないと思う	既に知っている大学から選ぶ可能性が高まる	自分の学力や難易度から選ぶ可能性が高まる	進学サイトや大学HP、SNSなどオンライン上の情報で選ぶ可能性が高まる	進路イベントの有無にかかわらず、自分で見て選ぶ可能性が高まる	1年浪人して来年、第1志望にチャレンジしたいと思う	その他
4月調査 全体	402	57.0	26.4	23.9	11.7	4.0	-	0.2
7月調査 全体	421	49.9	33.5	24.7	4.0	2.6	1.0	0.5
【7月調査 属性別】								
男女別 男子	132	50.0	36.4	25.0	1.5	3.8	1.5	0.8
女子	289	49.8	32.2	24.6	5.2	2.1	0.7	0.3

第２章　高校２年生の進路選択像

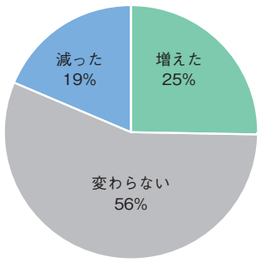
進路選択情報との関わり
SNSやブログでの情報収集に積極的

今後利用したい情報収集源は1位リアルOC、2位SNSやブログ

ここからは、8月末に実施した高校2年生調査に基づいて、1章の高校3年生調査結果も交えながら論じたい。まず、図表8の情報収集時間だが、コロナ禍による混乱は少し落ち着きを見せるなか、進路検討に関してはこれまでと変わらずが56％で半数以上。増えた、減ったと回答した高校生の理由を見てみると、増えた理由は「WEB OCへの参加」「オープンキャンパスがないため、自ら情報収集」等OC影響、減った理由は「コロナであってもなくても変わらない」「2年生なので影響は少ない」といったまだ進路選択に関して差し迫っていない時期だからこその意見が聞かれた。次に、コロナウイルス感染拡大を受けて“困っていること”と“今欲しい情報”について尋ねた。“困っていること”も“今欲しい情報”も1位はともに「オープンキャンパスや説明会情報」であった。例年であれば、高校2年生までに7割強がオープンキャンパスに参加しているが（進学センサス2019）、急な中止やオンライン化で情報収集に苦労しているようだ。“困っていること”の2位以下は、2位「キャンパスや実際の授業の様子などの雰囲気」36.5％、3位「学びたい分野を選ぶための情報」22.8％で、実際にキャンパスに行けないこと等、情報収集不足が影響していると考えられる。“今欲しい情報”については、2位～5位までは2ポイント差でほぼ横並びのスコアとなった。男女別に見てみると、全体的に女子のスコアのほうが男子より高いが、特に「オープンキャンパスや説明会情報」と「キャンパスや実際の授業の様子などの雰囲気」はギャップが大きい。気になるコロナ対策については、「コロナの影響への経済支援情報」6.8％、「オンライン授業に対応しているかなどの学習環境情報」7.3％と10％未満で、高校3年生の半分以下（図表2「志望校のコロナへの対応情報」23.3％）となった。先行き不透明、かつ実際に入学するのはだいぶ先なので、進路検討のための情報としての優先順位は下がっているのではないだろうか。インタビューしたある高2女子は「コロナ対策は国がしなければならないと言っており、学校は対応して当たり前なのでわざわざ調べない」といっていた。

では、情報をどのように収集しようとしているのだろうか。図表10に今後利用したい進路に関する情報収集行動について示した。1位は「キャンパスへ直接行くオープンキャンパス」30.0％、2位に「SNSやブログでの情報」29.0％、3位「各学校のホームページ」26.3％と続く。驚いたのがSNSやブログ利用意向の高さだ。進学関連情報の入手経路について経年で調査しているが（進学センサス2019）、最新でも8.0％で、非常に低かった。回答者が異なるため、単純比較はできないが、WEB OCを始め進路情報の急激なオンライン化により、公式SNSアカウントを開設する学校も増えてきており、学校からの発信量が増えたことも影響していると考えられる。高校生利用者の多いTwitterやInstagramなどSNSの活用は広報上外せない必須のものになってくるだろう。一方、「各学校の公式アプリ」は7.8％であり、高2時点における情報収集段階の利用意向はまだ高くない。

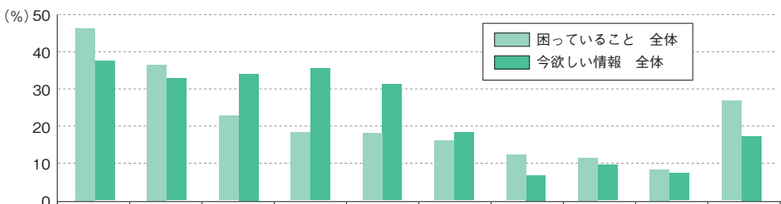
図表8　進路選択情報収集時間増減とその理由（単一回答）



増えた理由
- webオープンキャンパスが実施されて、大学に行かずに情報が得られるようになったから。
- 今年はオープンキャンパスが中止になっているため、自ら積極的に情報収集しなければならないと思ったから
- コロナの影響を受けて、色々変化してるから
- 不安な気持ちが強くなったから

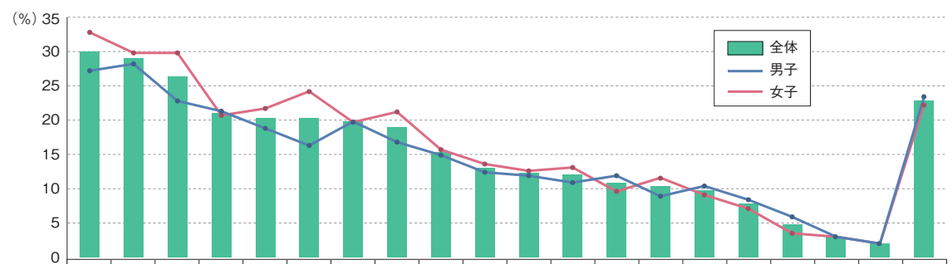
減った理由
- コロナであってもなくても情報収集にかける時間は変わらないから
- コロナがはやる前から行きたい専門学校は決まっていたから
- 2年生なので影響は少ないから
- まだちゃんと考えていないから

図表9　進路を検討するにあたり、コロナウイルス流行による影響を受けて困っていること（複数回答）と今欲しい情報（3つ選択）



	調査数	オープンキャンパスや説明会情報	キャンパスや実際の授業の様子などの雰囲気	学びたい分野を選ぶための情報（適性診断などを含む）	入試方法や難易度（入試の時期、科目、倍率など）	自分の学力情報（志望校合格判定情報や模試による学力診断など）	奨学金や学費などの詳しい情報	コロナの影響への経済支援情報（コロナ奨学金・授業料減額など）	就職状況についての情報	オンライン授業に対応しているかなどの学習環境情報	特にない	その他
困っていること　全体	400	46.3	36.5	22.8	18.3	18.0	16.0	12.3	11.5	8.3	26.8	0.8
今欲しい情報　全体	400	37.5	32.8	34.0	35.5	31.3	18.3	6.8	9.5	7.3	17.3	0.0
【今欲しい情報の属性別】		各項目で最もポイントが高い				各項目で2～3番目にポイントが高い（特にない除く）				※「困っていること」降順ソート		
男女別　男子	202	33.2	28.2	37.6	35.1	28.7	16.8	5.4	10.9	6.9	18.3	0
女子	198	41.9	37.4	30.3	35.9	33.8	19.7	8.1	8.1	7.6	16.2	0

図表10　コロナによる影響を受けて、進路に関する情報収集行動で今後利用したいもの（複数回答）



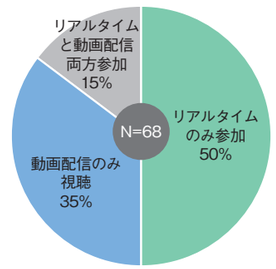
	調査数	キャンパスへ直接行くオープンキャンパス	SNSやブログでの情報	各学校のホームページ	高校の先生からの情報やアドバイス	高校でもらった進学情報誌	WEB進学説明会・ガイダンス（リアルタイム・動画配信）	進学情報サイト（Web）	WEBオープンキャンパス（リアルタイム・動画配信）	会場へ直接行く進学説明会・ガイダンス	自宅に送られてきた情報誌やDM（ダイレクトメール）	WEB個別相談	友人・先輩からの情報やアドバイス	塾・予備校の先生からの情報やアドバイス・配布された資料	家族からの情報やアドバイス	書店で買った進学情報誌・本	各学校の公式アプリ	テレビ・ラジオCM	電車の中の広告・駅の看板など	新聞広告	特にない
全体	400	30.0	29.0	26.3	21.0	20.3	20.3	19.8	19.0	15.3	13.0	12.3	12.0	10.8	10.3	9.8	7.8	4.8	3.0	2.0	22.8
【属性別】		最もポイントが高い					2～3番目にポイントが高い													※「全体」降順ソート	
男女別　男子	202	27.2	28.2	22.8	21.3	18.8	16.3	19.8	16.8	14.9	12.4	11.9	10.9	11.9	8.9	10.4	8.4	5.9	3.0	2.0	23.3
女子	198	32.8	29.8	29.8	20.7	21.7	24.2	19.7	21.2	15.7	13.6	12.6	13.1	9.6	11.6	9.1	7.1	3.5	3.0	2.0	22.2

オープンキャンパスの価値はどう変わっていくのか
WEB OCは「距離と時間」を超えられるが、「雰囲気」はリアルで感じたい

今後参加したいOC形式は リアルOCが78.3％、WEB OCが43.6%

WEB OCの「認知・計」は75.9％、「参加意向あり・計」が69.6％で、認知率は高校3年生より低いが、参加意欲は高い（図表11）。実際にWEB OC参加経験者に参加したきっかけを尋ねると、1位「学校のホームページを見た」60.3％と圧倒的。2位も「学校から送られてきた郵便物やメールを見た」32.4％で、学校から発信された情報きっかけが多い（図表12）。参考にオープンキャンパスに参加したきっかけ（進学センサス2019）と比較すると、学校の先生や保護者の関与や友達に誘われたなど、人を介したレコメンドでのWEB OC参加率は低いようだ。WEB OC告知広報において非接触者・非認知層へのアプローチは大きな課題といえる。視聴方法はリアルタイム50％、動画配信視聴35％、両方参加15％という結果になっていることから、リアルタイムにこだわらない配信方法にも工夫の余地はありそうだ（図表13）。今後参加したいOC形式はリアルOCが78.3％、WEB OCが43.6%。コロナが落ち着いたら、やはり実際にキャンパスに足を運び雰囲気も感じたい、という高校生の心情が表れているのではないだろうか（図表14）。WEB OCに期待していることを尋ねると、1位～3位はオンラインの大きなメリットである「距離と時間」についてであった。このメリットは高校生・学校双方にとって非常にチャンスであることは間違いない。「距離と時間」の問題でこれまで出会うことのなかった高校生と高等教育機関とが出会えるマッチングのチャンスが広がっている。一方、「キャンパスの雰囲気がわかる」については、17.8％と期待は低い。リアルでしか伝わらないこともちろんあるだろう。オープンキャンパスという場の価値を高めていくために、リアル・WEBを組み合わせながら、どのように進化していくのか、注目したい。

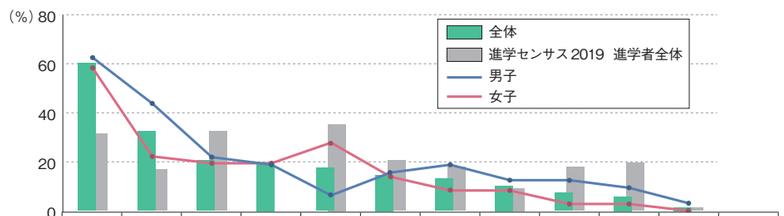
図表13　WEBオープンキャンパスはどのように参加したか（単一回答）



図表11　WEBオープンキャンパスの認知度と参加意向（単一回答）

(%)	調査数	認知・計 参加意向あり 知っているし、複数回参加したことがある	知っているし、一度だけ参加したことがある	知っているし、行きたいと思っている	認知・計 参加意向なし 知っているが、行きたいとは思わない	非認知・計 参加意向あり 知らなかったが、(今知ったことで)行ってみたいと思う	非認知・計 参加意向なし 知らなかったが、(今知っても)行きたいとは思わない	認知・計	非認知・計	参加意向あり・計	参加意向なし・計
全体	400	6.3	10.8	39.5	19.3	13.0	11.3	75.9	24.3	69.6	30.6
【属性別】											
男女別　男子	202	5.0	10.9	41.1	12.9	14.9	15.3	69.9	30.2	71.9	28.2
女子	198	7.6	10.6	37.9	25.8	11.1	7.1	81.9	18.2	67.2	32.9

図表12　WEBオープンキャンパス参加のきっかけ（複数回答）（＊）進学センサスはオープンキャンパスに参加したきっかけ



	調査数	学校のホームページを見たので	学校から送られてきた郵送物やメールを見たので	学校の先生から行くように言われたので	SNSやブログでの情報を見たので	もともと自分で行こうと思っていたので	学校の授業・宿題だったので	進学情報サイト（Web）で見たので	進学情報誌を見たので	友達に誘われたので	保護者から行くように言われたので	偶然広告で見たので	その他
全体	68	60.3	32.4	20.6	19.1	17.6	14.7	13.2	10.3	7.4	5.9	1.5	2.9
進学センサス2019 進学者全体(＊)	2373	31.4	16.9	32.4	-	35.3	20.5	17.8	9.2	17.9	19.5	1.2	1.2
【属性別】													
男女別　男子	32	62.5	43.8	21.9	18.8	6.3	15.6	18.8	12.5	12.5	9.4	3.1	0.0
女子	36	58.3	22.2	19.4	19.4	27.8	13.9	8.3	8.3	2.8	2.8	0.0	5.6

各項目で最もポイントが高い　各項目で2～3番目にポイントが高い　※「全体」降順ソート
「全体」より5ポイント以上高い　「全体」より5ポイント以上低い

図表14　今後参加したいオープンキャンパス参加形式（単一回答）

(%)	調査数	キャンパスへ直接行くオープンキャンパス (1)	WEBオープンキャンパス (2)	(1)、(2)ともに参加したい (3)	オープンキャンパスに参加したいと思わない	その他	リアル参加希望 (1)＋(3)	WEBOC参加希望 (2)＋(3)
全体	400	48.5	13.8	29.8	7.5	0.5	78.3	43.6
【属性別】								
男女別　男子	202	45.5	15.8	29.2	9.4	0.0	74.7	45.0
女子	198	51.5	11.6	30.3	5.6	1.0	81.8	41.9

図表15　WEBオープンキャンパスに期待していること（複数回答）

	調査数	お金がかからない（交通費など）	遠方から参加できる	どこからでも気軽に参加できる	入試の説明	学部学科・カリキュラムの説明	自分の都合を合わせやすい	キャンパスの雰囲気がわかる	施設・設備の情報が知れる	先生の話を聞ける	在校生の話を聞ける	就職状況・支援体制の説明	奨学金や授業料減額などの経済支援の説明	チャットなどで気軽に質問できる	取れる資格・支援体制の説明	模擬授業を受けられる	保護者と一緒に参加できる	個別相談などで直接質問できる	オンライン上で他の参加者の様子を見ることができる	卒業生の話を聞ける	特にない	その他
全体	400	51.8	50.8	41.3	27.8	24.8	23.8	17.8	14.3	11.5	10.8	10.8	10.5	10.3	10.0	10.0	9.8	6.8	6.3	5.3	15.8	0.5
【属性別】																						
男女別　男子	202	49.0	52.0	38.6	26.2	22.8	19.3	17.8	12.9	9.4	7.9	10.4	10.9	9.9	8.4	9.4	5.9	7.9	5.0	4.5	15.3	0.0
女子	198	54.5	49.5	43.9	29.3	26.8	28.3	17.7	15.7	13.6	13.6	11.1	10.1	10.6	11.6	10.6	13.6	5.6	7.6	6.1	16.2	1.0

各項目で最もポイントが高い　各項目で2～3番目にポイントが高い　※「全体」降順ソート

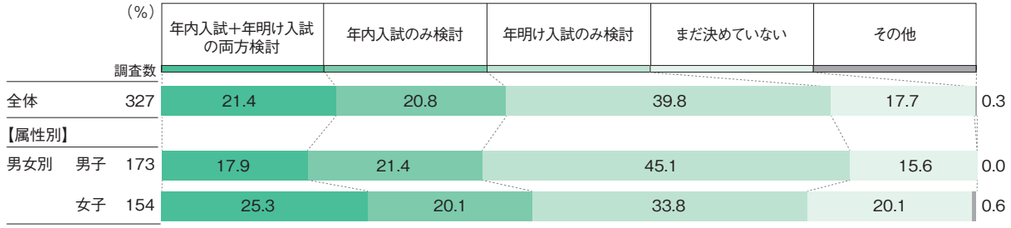
高校2年生が現時点で検討している入試方式
年内入試へのシフトはさらに加速傾向

年内入試検討層は42.2％、高校3年生より増加傾向

情報収集行動、WEB OCの価値を見てきたが、高校2年生が8月時点で検討している入試方式を選択してもらった。コロナによる混乱を受けて、「まだ決めていない」が過半数以上だろうという予想に反して、既に年内入試か年明け入試かをしっかり検討しているという結果となった（図表16）。具体的には「①年内入試＋年明け入試両方検討」21.4％、「②年内入試のみ検討」20.8％、「③年明け入試のみ検討」39.8％で、年内入試検討層は42.2％（①＋②）で高校3年生より（図表6参照）さらに年内入試志向が高まっていることが窺える結果となった。男女別に見てみると、女子のほうが年内入試検討層は多く45.4％となった。逆に年明け入試のみ検討は、女子33.8％に対して、男子45.1％と10ポイント以上男子の方が高かった。

最後に、「進路選択に関して、現在不安に思っていること」を自由回答で得た。記入率が80％を超えたことに驚いたが、高校生の叫びとも感じられる、不安が数多く寄せられた。コロナ、オープンキャンパス、学力、入試に関するコメントが非常に多く、入学後～卒業後就職について心配する声も届いた。特に入試に関しては、今年の高校3年生が記述式と英語4技能の見送り、等右往左往しているのを見ているだけに、大きな不安を抱いている様子が感じ取れる。

図表16　大学を受験する際に、検討している入試方式（単一回答）
※12月までに実施する年内入試；学校推薦型選抜や総合型選抜／1月以降に実施する年明け入試;一般選抜や大学入学共通テスト利用



【進路選択に関して、現在不安に思っていること】

コロナウイルスに関して
- まだ共通テストもどうなるかハッキリしていない状況でコロナ臨時休校となり、再来年の受験に不安しかないです。来年の受験がもし、範囲を狭めてやることになれば私たち高2からすれば過去問がないのできついです
- コロナの影響で来年倍率が高くなるのではないかということ
- コロナの影響で人に話を聞く機会が減っているため不安はあります
- いつコロナが収まるか分からない状況で東京から出られるのかが不安また海外に留学したいのだが、日本から出られるのかも不安がある
- コロナウイルスの感染がおさまらなかったら、大学に行ってもオンライン授業ばかりで、実習やサークルの活動などができないのではないかという不安があります

入試に関して
- 今年から変わる入試制度について、まだよく理解できていない
- 複数の候補の専門学校から今年度の暫定的な試験方法を教えて頂けたが、来年度の入試がどうなるか分からず試験対策が困難な点
- 入試方法が今後コロナウイルスによってどう変わるか

オープンキャンパスに関して
- コロナの影響で実際オープンキャンパスなどに行けていないので、大学の雰囲気などが掴めていない
- 全てがオープンキャンパスをオンラインでやっている訳ではないし、志望校が都内なので直接行くのも躊躇われる
- オープンキャンパスに参加できていないので実際の雰囲気が気になる

学力に関して
- 自分の学力がどのくらいなのかハッキリ知りたい
- 自分の学力が全く足りていないこと
- まだまだ行きたい大学には学力が届いていないことと、授業が遅れているため他県との学力の差が生じるのではないかという不安
- 自分の学力レベルが大学のレベルに追いつくかが心配
- 自分の学力がどの辺りなのか分からない。自宅だと勉強をやる気がわかない

Voice 1 ＜マホさん＞ 千葉県の私立高校2年生 私立大学へ進学希望

■一斉休校中の過ごし方
志望校は決まっていたので、この休校期間に巻き返したら点数上がるかもしれないと勉強への意欲が上がりました。併願校に資料請求するなど、進路選択のための情報収集して、やりたいことを学べる大学はどこかとじっくり考える時間でした。
■オープンキャンパス参加について
高校1年生の夏に6大学のオープンキャンパスに参加しました。高2の夏はWEB OCに5校参加（リアルで4校、動画配信で1校）しましたが、読めばわかるなという内容が多く、YouTubeやSNSで志望校の大学生が発信している情報やインスタライブで直接質問するなどして情報を得ています。部活や課外活動に取り組んでいる大学生の姿をみて、その大学に対しての印象ががらっと変わりました。
■志望校選びについて
将来はアナウンサーや政治新聞記者になり、自分の言葉や文字で多くの人に政治を伝えたいと思い、政治学部のある大学中心に情報収集しています。両親がいつでも一緒に考えてくれるので、心強いです。

Voice 2 ＜アイリさん＞ 神奈川県の私立高校2年生 私立短期大学へ進学希望

■一斉休校中の過ごし方
クラスルームというアプリで先生から届く課題を、締切りに合わせて提出していました。積極的に勉強する気にはなれず、アルバイトをしながら過ごしていました。保健体育の課題がオリンピックに関するレポート用紙5枚以上など、大変な課題もあって、正直しんどかったです。
■オープンキャンパス参加について
高1の時は参加しなくて、2年になったら参加しようと思っていたが、コロナ禍で志望している学校のオープンキャンパスも中止になり行けませんでした。WEB OCも参加してみたかったけれど、まだ2年なのでコロナが収束してからキャンパスに直接行って雰囲気を確かめたいと思っています。直接行かないと、学校の雰囲気わからないと思うので、、、
■志望校選びについて
保育学科のある短大へ指定校推薦での進学を志望しています。その学校は、幼馴染のお姉ちゃんが昨年進学して知りました。推薦をもらえる成績は確実に取れるよう勉強も頑張っています。

今回の調査を通じて見えた、コロナウイルス流行による進路選択行動への影響は大きく2点。

(1) 年内入試志望がさらに高まり、進路検討期間が短期化することで、限られた知っている学校から志望校を選ぶ可能性が高まる

年内入試（総合型選抜・学校推薦型選抜）志望の増加要因は主に2つ考えられる。①2016年からの入学定員厳格化によって、大都市圏の私立大学が合格者を絞ったために一般入試の競争が激しくなっていること。②2021年度は『教育改革元年』と言われ、入試において大学入学共通テスト導入初年度、かつ各大学の個別選抜も学力の3要素を重視したものに変わっていくこと。以上のことから、受験生に安全志向が広まっていたところに、コロナ禍で不安が増大しており、「とにかく早く合格を決めて安心したい」「対策の取りづらい共通テストは避けたい」「コロナウイルス第2波が怖い」などの心情から、さらに年内入試の志望が高まることが予想される。年内入試を目指すとなると、高校2年生の検討期間は1年をきっている状態だが、学校の雰囲気を知れるオープンキャンパスや自分の学力を測る模試の受験機会減など、進路検討するためのあらゆる情報が十分に得られていない状況である。情報不足、かつ検討期間が短期化することで、知っている学校や偏差値から選ばざるをえない高校生が増える可能性が考えられる。コロナ禍で、まだまだ2021年度入試対応が求められているが、2022年度以降入試に向けた志願者の母集団形成のための広報をなるべく早く開始する必要があるのではないだろうか。その広報手法は、可能な限り非接触手段が求められている訳だが、最大の手段がオンライン活用であることは間違いない。

(2) オンラインでどこまで空気の共有、雰囲気を伝えられるか

リアル接触がなくなったことで、“雰囲気”が分からず困った、WEB OCでは“雰囲気が分かる”ポイントがリアルOCより低い、今後利用したい情報はキャンパスに実際に行くオープンキャンパスという結果を得た。オンラインは一般的に表情や動作、声色が見えづらく、空気の共有・共感が難しいといわれている。また、友達を誘ってふらっとオープンキャンパスに来ました、といった気軽感も重要なキーワードとなる。SNSやブログの利用意欲も高まっていることから、目的によってコミュニケーションツールの多用も進んでいくだろう。コロナ禍によって、オンラインが当たり前の社会となった今、募集広報においてもオンラインの場を磨き、オフライン（リアル接触）の場の価値を高めることが求められるのではないだろうか。オンラインへの期待は募集広報の大きな転換点となるのか。引き続き動向に注目したい。

（文・池内摩耶）

▶カレッジマネジメントTOPページへ戻る